

障害がある子が
近くの学校に
行けないのはなぜ？
地域の中で
育て欲しい



ずっと、 誰一人取り残さない^{※8} 礒中の教育

礒中では様々な障がいのある生徒だけでなく、支援の必要な全ての生徒が学べるよう取り組んでいます。

かつて日本の学校では、障がいのある子どもだけを別学級に集める「分離型教育」が主流でした。これは通常級との交流の機会が乏しく差別や偏見の温床となっていました。2006年に国連で障害者権利条約が採択されたのを機に、日

本は皆が共に学ぶ「インクルーシブ教育」へ転換。2011年の障害者基本法改正、2014年の条約批准、2016年の障害者差別解消法施行によって、障がいのある子どもの通常級参加が推進されるようになりました。

これに対して礒中では、1987年から分離型の教育をやめ、すべての生徒を通常級に所属^{※9}させる取組みをスタート。同時に「個別学習室」で教室に入りづらい生徒も含め、特性に応じて個別最適な学びを行う仕組み

を整えました。SDGsの理念「誰一人取り残さない教育」を、すでに40年も前から実践していたのです。

これを支えたのは、慣例にとらわれず「困っている生徒をどう支えるか」を真剣に考え続けた先生方の存在でした。その背中を見た生徒たちの間に誰一人取り残さず、自然にお互いを助け合う空気が生まれ、今もそれが続いているのです。

CASE 1987 「支援級がなかった」理由

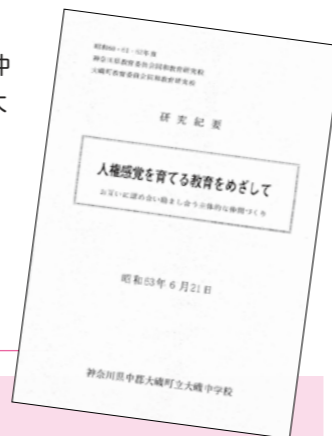
1987年以降の卒業生は、当時、特別支援級（特殊学級）はなかった、と記憶している。実は1986年までは特殊学級「組（在籍1名）」があり、学習などは全て別に行われていた。1987年に杉山先生が支援級担当になって、「組」を「個別学習室」と名前を変え、支援が必要な生徒は見かけ上通常級に在籍しつつ必要な時に「個別学習室」に通うように変えた。差別・分断を生まないためのアイデアで、周りは通常級・支援級と意識することなく自然に溶け込んでいた。

CASE 1988 「差別のない学級」

「同和教育研究」に指定された礒中は、1988年2月「差別のない学級」として特別活動授業を行った。身体に不自由がある生徒が「クラスに友達がいない」と訴えていることを正面から取り上げ、クラスみんなで話し合っている。研究発表では、無意識のうちに差別していたことを認識したという生徒の感想や、翌日からクラスの雰囲気が変わったことなどが報告されている。^{※10}

※10: 「人権感覚を育てる教育を目指して お互いに認め合い励まし合う主体的な仲間づくり」(大磯中学校・昭和60・61・62年度神奈川県教育委員会同和教育研究校大磯町教育委員会同和教育研究校研究紀要 昭和63年6月21日) P113。

この報告書は1985年に大磯中学校が同和教育研究の指定校となって3年間研究した内容を200ページにわたってまとめたもの。社会科研究部、道徳研究部、特別活動研究部などの各担当教員が同和教育の観点から実際に行った授業を詳細に記し、例えば社会科でインドのカースト制度について妹尾河童の「河童がのぞいたインド」を資料として取り上げたことなどがわかる。



1987年には始まっていた分離教育からの脱却。 礒中独自の「個別支援」へ。

礒中で障がいのある生徒だけを1つのクラスに集めた「特殊学級」を廃して個別指導を行うようになった経緯を当時の担当教員だった杉山先生は次のように語っている。「同和教育研究指定校になったことをきっかけに改めて何が一番大切なのかを考えた時、弱い立場、現状の世の中できつい立場にあるものにもっと目を向けたいと思った」その結果「特殊学級という形態から一歩進ませた個別指導のかたちになった」。

「個別学習教室」は「緊急避難的にそこにくれば安定感を持って、またみんなのところに戻っていくことができる。そういった援助が必要な子どもたちのために考えています。あくまでも母体はクラスなので、みんなとなるべく一緒に授業を受け、時間割によって個別に来ます。科目も時間も生徒によって違います」(平成7(1995)年の「こゆるぎ115号」)

CASE 1991 東京と大磯

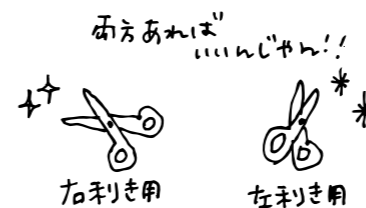
東京の小学校を卒業したノブタカさんは1991年、礒中に入学。

ノブタカさんには先天性の障がい(ダウン症)があり、東京では希望した公立小学校で前例がないことなどから入学を断られた。学校や教育委員会に掛け合ってなんとか入学したものの、在学中はいじめられたり度々学校に呼び出されて、障がい児がいると大変だと校長に責められたという。

ご両親は礒中入学時もまた断られるかもと身構えていたが、支援学校を勧められることもなく入学、普通クラスに編入され、東京との差に驚いたという。

入学後は、みんなとは別室でスーパーのチラシを利用し電卓を使った数学の授業を受けたこともあった。そこで時計の読み方なども教わった。100点をもった時にはとても喜んでいたという。体育では組み立て体操やクラス対抗リレーにもみんなと一緒に参加した。修学旅行ではグループに受け入れた女子5人が、生活上の注意すべき点を聞くために自宅に来てくれるなど、先生、同級生のおかげで中学生生活を楽しく過ごしたという。

ご両親は、小学校での学校生活では常に心配していたが、礒中では安心して過ごすことができた振り返っている。



※8: 2015年に国連で採択された持続可能な開発目標には「誰一人取り残さない」という基本理念が示されている。

※9: 書類上の在籍は「特殊学級」のままだったが、周りにも、本人にさえ通常級の所属に見えるように工夫していた。

CASE 2024 困っていたから

礒中では前年度、学びの場を失い困っていた他市在住の3年生ハルカさんを受け入れた。

ハルカさんは、他市の公立中学校に入学したが不合理な校則指導や、生徒間での役割分担の押しつけや失敗を許さない空気などに耐えられず登校できなくなっていた。近隣の不登校支援室がある中学への転校を希望したものの学区外という理由で断られ、家族で途方に暮れていたが、大磯町教育委員会が早く受け入れ転校。1年間、主に支援室に通い、最後は在籍のクラスの仲間と2025年3月に卒業した。

ハルカさんにとって、礒中は明るくクラスメイトが優しく楽しくて、自分のペースで1年間通うことができた。卒業時には「先生と生徒の関係が優しくて、元の学校とは全く違う、こんな素敵な物語のような世界があるのか」と感動したという。ハルカさんの保護者も、礒中の空気はどこにでもあるものではなく、生徒がのびのびできる本当に貴重なものだ、と感じたと話している。

CASE 2025 クラスで話し合う

「礒中は行事で生徒を育てる」と言われている。行事はとにかく熱く真剣に取り組むのが礒中流。運動会では、クラスメイトの得意不得意と向き合い、その上で勝つための作戦を練っていく。みんなで勝ちたい、という共通の明確な目標があるから、普段なら見過ごしてしまうようなことも、みんなで腹を割って話し合う。一つの答えを出して全員で力を尽くす。

礒中の行事には、「誰一人取り残さない」を生徒自身で考えるための生きた学びがあるのです。

自由な校風の源泉は職員室にある！のか？！

管理型教育から脱し、「服装自由」「校則わずか7つ」という全国的に見ても際立った特色が生まれ、40年にわたって維持されてきた土壌は、先生方が話し合う職員室にあったのではないかと…。「こゆるぎ」ではそのような仮説を立て、先生方の「指導上の苦労」や「創意工夫」について、聞いてみました。

先生たちに聞いてみた！

Q1. 生徒自ら考え、行動し、解決につなげるために先生が実践していること、それにより変化したエピソードなどがあれば教えてください。

▶行事等で、教員も全力を出して本気になる。生徒と一緒に取り組むことで、生徒も本気になるし何より最高の青春の思い出になると思います。▶思考を促す声掛けをしています。▶授業で教えるだけでなく、ペアワークで考えてもらったり、音読してもらったり、問題を出し合ってもらったりしています。生徒たち同士で「この勉強法いいよ。」や「そこ間違ってるよ！」など高め合っている姿が多く見られるようになりました。▶「なぜ」「どうしたい」などの問いかけの言葉を意図的に使って指導している。▶部活動での練習試合の移動方法を自分たちで調べさせて当日は黙って後ろからついていく引率をしていたことがあります。▶演劇部ではいろいろな行事などの担当を決め、担当になった生徒中心に進めるようにしています。劇を行う際にも担当を決めますが、自分たちで考えた案をもとに、他の部員に協力を求めたり、指示したりしながらの活動になります。音楽室の清掃も自分たちで曜日を決めて行っています。それぞれが完璧にできるわけではありませんが、区切り区切りで振り返りを行い、どうすればよいかを考える。▶自分から動くことを指導している。▶生徒が挑戦ができる機会をたくさん与えたいと思っています。▶会社制度ということで自分たちの部署ごとに解決できるように伝えておく。部長を決めて情報交換を行うことでリーダーを増やしたり、みんなが責任感をもって準備を行うことができる。▶生徒会本部役員は、教員から指示することはなく、原則生徒同士で連絡を取り合って物事を進めています。▶はじめは自分たちで解決するように促している。

Q2. 磯中ならではの苦労や面白さ、工夫やこだわりなどがあれば教えてください。

▶文化祭。0から何かを作り上げるのはとても大変でした。中学生の出し物なのでダンスだって完璧にはそろわない。でも、その未完成的な感じがよいなと思います。生徒の気持ちののってこないときは地獄ですが、気持ちがのってきたときの行事は本当に楽しいです！ただ、その気持ちを乗せるのが一番大変なのですが(笑)▶校風が自由なところがあるので一人一人の個性が伸びて面白いなと思いますが、自由なゆえルールがないため、指導の仕方に難しさがあります。▶学校の廊下だけでなく、町内の道端でもとても気さくに話しかけてくれて毎日楽しいです。▶決まりやルールがない中での生徒指導は、面白くもあり難しさも感じている▶子どもたちが苦労する課題設定をすることを心がけていました。▶本当の意味で個性を發揮できるようになってほしい。▶生徒が自ら考え行動するためにどんな働きかけができるかを考えています。▶何をすることも自由なのでどんなことをすると学びや成長があるかは、担任の腕次第になっている。私は大変な思いをさせることを意識している。▶【苦労？】自立をうたう割には、どちらかというと自由奔放な印象を受ける場面も少なくない。▶校則が少ないため、子供たちが自ら気づかせることで苦労することがある。

Q3. 行事に真剣に取り組むことは生徒の成長にどのように貢献していると感じますか？

運動会！
文化祭！

- 1位 ・仲間と協力して一つの目標を達成することで、協調性・チームワークが育まれる (9票)
- 2位 ・責任ある役割を果たす中で、自主性・主体性が高まる (8票)

その他：失敗や困難を乗り越えることで、粘り強さ・レジリエンスが育つ (4票) 教科学習では得がたい、実践的な社会性や協働性を学べる (4票)

校長先生・教頭先生に聞いてみた！

「自立した中学生」とはどのような生徒像と考えていますか？

自分で考え、判断し、行動できる生徒であるとともに、本当に必要なときは、素直に大人や周りの仲間に助けを求めることができる生徒。

「自らの人生について主体的に考え、今できることについてしっかりと取り組む。何かあっても人のせいにならず、自分事として捉えて行動に移すことができる。」だと思います。

今の磯中の現状と課題を教えてください。

行事の際は元気よく取り組んでいるイメージですが、普段の生活では全体的に元気の良さを感じる機会が少ないかなと。タイパ・コスパの考えが中学生にもしみ込んでしまっているのだと残念。せっかく、過去の磯中生が何でも自由に行ける中学校にしてくれたのだから、その良さを生かせるように、様々な場面でもっとエネルギー(熱)を放出してほしい。



辻丸校長先生



青柳教頭先生

生徒の皆さんは子供から大人へと成長する過程の中で、誰かにやってもらう段階から自分のことを頑張ることができるようになっていく人が多いように感じています。その上で自分以外の人や自分以外のことのために頑張れたり、率先して動けたりする人がもっと増えてほしいと思っています。学校としても過去の自由化の流れを踏まえ、今の時代に合わせた学校になっていくためにどのように形を変えていくのか悩みながら進んでいるところです。生徒と先生と一緒に考えながら作り上げる伝統は失わないでほしいです。

Q4. 昨年、一昨年に「こゆるぎ」で実施した3年生アンケートで、「磯中自慢」として先生と生徒、男女問わず生徒同士が「仲がいい」「先生も生徒も個性豊か」「のびのびしている」「自由な校風」との回答が多く見られました。こうした先生と生徒が互いに親身に話し合える関係や、風通しの良い雰囲気が磯中にあるのはなぜだと思いますか？

▶生徒が良くも悪くも言いたいことを言う環境だからだと思います。▶校風が自由なため、柔軟な対応ができるからではないかと思っています。▶生徒想いの先輩教員の方々が築いてきた伝統があるからだと思います。▶先生と生徒という関係ですが、一人の人間として認め合ったり相手の立場になって考えられたりすることができたら素敵だと思います。▶規則やルールに縛られず、皆で一緒に考えて決めていくという文化が根付いているから教員と生徒が、生活について指導する側、される側という関係性にならぬと思います。▶生徒と先生が、同じ方向を向く瞬間があるとき、本当に話し合えるようになるのだと思う。▶自立が身につけている結果がのびのびしていることにつながってほしいと思います。▶先生方の接し方がお上手だからだと思います▶現代の学校現場に過剰に求められる「かたさ」があまりないからだと思います。▶大磯町自体の雰囲気がとても良いため。

Q5. 職場としての大磯中学校の良いところはどこですか？

- 1位 ・やりたいことをやらせてもらえる雰囲気がある
- ・生徒と共に運動会や文化祭でアツくなる
- ・生徒と教師の距離が近い (4票) * *
- 2位 ・校舎のロケーション (海、松並木、山) (3票)

Q6. 磯中生の良いところはどこですか？

- 1位 ・男女問わず仲が良い
- ・素直 (9票) *
- ・多様性を認め合っている (5票) ☺
- 2位

Q7. いまの磯中生の、もっと伸ばしてほしいところはどこですか？

- 1位 ・あいさつ/言葉遣い/礼儀
- ・時間にルーズなところ (5票)
- 2位 ・自分の意見をはっきり言わないところ
- ・TPOを意識できていないところ (3票)
- ※逆に0票は…他者を尊重できないところ
- ・授業態度が悪いところ

みんなのびしろ！

磯中の生徒会

「自立」と「健康」を支える
生徒会システム

磯中の自由な校風を支えてきたのは、名実ともに生徒による自治のしくみ「生徒会」でした。どこの学校にも生徒会活動はありますが、40年も前から、学校内のルールメイキングを生徒会の主導によって行ってきた磯中は全国的にも珍しい存在です。

それを陰で支えてきたのは先生方でした。「生徒たちが自分たちで考え、決めたことをできる限りやらせてあげたい」という思いが引き継がれ、生徒総会でも、先生方はできるだけ口を出さずに生徒たちの議論を見守っています。

生徒会組織

生徒総会

磯中生徒会の最高意思決定機関。学校全体に係る大きなことについて、提案・検討・話し合いが行われる。

生徒会本部

議会などのまとめ役。より良い学校づくりのために働く機関

学校議会

生徒会本部役員、各クラスの学級委員長、専門委員長が出席し、クラス会、専門委員会での意見をもとに話し合う。

学年議会

学級委員長を中心に、クラスや学年の課題について話し合う。解決に向けて専門委員会からの提案を受けることも。

専門委員会

実行委員会

選挙管理委員会
生徒会本部役員選挙の企画運営、投票管理。

各学年委員会

学級委員長を中心にクラスや学年の課題について話し合う

- 学級委員会
- 学級委員会
- 学級委員会
- 学級委員会

- ①生活委員会
- ②保健委員会
- ③環境整備委員会
- ④視聴覚委員会
- ⑤図書委員会
- ⑥ボランティア委員会
- ⑦情報委員会
- ⑧運動会実行委員会
- ⑨文化祭実行委員会

①生活委員会：薬物乱用防止教室、情報モラル教室、交通安全教室、学校生活委員会、ピンクシャツデーの運営など。

②保健委員会：空気清浄機の入替えや手入れ、トイレトイレットペーパーの補充など。

③環境整備委員会：C-1グランプリの運営、大掃除の準備、ワックスかけなど。

④視聴覚委員会：昼の放送、行事での放送をメインに、インタビューなども実施。おすすめの曲をみんなに聞いてもらえる。

⑤図書委員会：本の貸出、ポップの作成、読書週間やビブリオバトルの運営など。

⑥ボランティア委員会：赤&みどりの羽根募金、学校周辺の清掃、校内でのボランティア活動など。

⑦情報委員会：行事の準備の様子などを写真に撮ってまとめて情報発信。

⑧運動会実行委員会：運動会の開催にあたって、準備、活動場所、期間、ルールやクラスの役割決め、当日の運営など。磯中で一番楽しいのが運動会！

⑨文化祭実行委員会：各クラスで出し物やその内容を決める際の仕切り役。それを実行委員会で共有し、内容がぶらぶらにならないように調整する。企画書の作成も。9月10月はすごく忙しいけどやりがいがある。

意見箱

生徒会で話し合いたい内容や要望などはBOXに投函。今年からデジタル意見箱を導入、各教室に貼られたQRコードから気軽に意見を届けられるようになりました。



大磯中生徒会の方針

令和7年度

自由に羽ばたけ！！
～一歩前へ～

この方針に沿って
各行事のテーマが話し合われます。

運動会のテーマ「将棋」
文化祭のテーマ「花束」



磯中の文化祭

行事で「自立」を学ぶ

入学した高校の文化祭の規模にちょっとがっかりした。また磯中としてベルが違う、と感じた…という卒業生の声を聞いたことがありますか？そうなんです。中学校としては他ではあまり見ないタイプの磯中の文化祭は、文化祭実行委員会を中心に、話し合いと試行錯誤を重ねて作り上げられています。

文化祭はこうして出来上がる！

1学期

各クラスで文化祭テーマ、
クラス企画の話し合い

オーディションといっても基本的に脱落はなく、本番に向けての中間発表という位置づけではありますが、各チームはこの日のために練習を重ねて臨みます。

個人出演者オーディション

文化祭実行委員

実行委員は文化祭まで毎週集まって、進捗を共有します。仕事内容は様々。各クラスで話し合いの運営をしたり、総務の先生からの連絡を伝達したり。担任の先生と話し合いながら学校の物品の貸出要求なども。忙しいけどやりがいがあります！

企画書審査

第1回企画書再審査

第2回企画書再審査

本格準備に！

2025.10.18

第52回文化祭

磯中文化祭あれこれ

先輩's voice
1994年卒業 伊藤祐一さん

私は1993年、第20回文化祭の実行委員長をしました。10歳から地元の祭りチームに入るほどお祭り好きだったので、周囲から推薦されたんです。

当時から磯中は学年関係なくまとまりがあり、文化祭の後夜祭では音楽をガンガン鳴らせてディスコ状態だったり、すごく楽しかったのを覚えています。

この年作った文化祭テーマソングは「TRY」でした。この頃は毎年文化祭のテーマソングを、生徒の作詞・作曲で作っていたんです。

◀「TRY」はその後、生徒会歌となり、毎年4月の生徒会説明会のプログラムにも楽譜付きで掲載されている。

2024 伝統をつなげたい
コロナを経て復活、一般参加の文化祭

授業時間確保や、教職員の働き方改革などにより、コロナ禍後に学校行事を削減した公立中学校は数多くあると言われています。そんな中で磯中は2024年の文化祭で来場者の制限をなくし一般に開放。衛生管理を徹底させた飲食、地元工務店の協力を得た人力遊園地など、大掛かりで個性的な企画を完全復活させました。

その陰には卒業する3年生の生徒の強い願いがありました。「自分たちが『これが磯中の文化祭だ』というのを見せないで、1・2年生たちはコロナ禍の縮小した行事しか知らないまま終わってしまう...」

先生たちも「やるなら磯中にしかできないものを。」と、企画の根本から考えさせる声かけをしました。その結果、6年前の半分の準備時間にもかかわらず、今までの文化祭と同等、またはそれ以上の「生徒たちに学びがある」企画が実施されています。たくさんの思いが磯中の文化祭の伝統をつないでいるのです。

1970's- そこのまでやる?! 磯中文化祭

基本的に生徒の希望をできるだけ実現させるよう応援してきた先生たち。今まで個性的な企画が多くありました。「蕎麦を売ると決めたクラスが、蕎麦の種まきから収穫まで経験し、蕎麦粉の一部とした」「教室で自転車発電をした」「中庭の池を掃除してニジマスを放流し、釣り堀にした」... 生徒のアイディアに驚きますが、先生のサポート力もすごい。文化祭は教師・生徒が一丸となって作り上げる醍醐味があったんですね。



令和7年度 PTA グループ活動報告

イベントサポート



イベントサポートグループは、運動会で熱中症対策として水分補給の呼びかけや見回りを行い、生徒たちの体調管理に努めました。文化祭では、トラブル防止のため、学校内の見回りを行いました。飲食を行うクラスの補助も担当しました。

3 学期は、カレーパーティーを行う予定です！

図書



PTA 寄贈本にブックコートをかけ紹介ポスターを作り生徒用玄関に掲示しました。10 月はハロウィンや秋の飾りを 11 月は読書月間の準備をしました。秋飾りで作った葉の裏に番号を付け、その分類の本を読んでもらう企画です。子ども達に様々な本を読んでもらう機会として毎年考えています。

ガーデナーズ



毎月第三水曜日の 10~12 時に活動しています。夏休み明けは秋らしい色味のお花を植えつけ、10 月にはロータリーをハロウィン仕様、11 月以降は冬のお花を少しずつ増やしクリスマス装飾にチェンジ。子どもたちや先生方、来校される方が季節を感じ喜んでいただけていたら嬉しいです。次回は 11 月 14 日(水)に活動予定。ご参加お待ちしております！

ICT



ICT グループでは、学校行事の記録や情報発信を目的に活動しています。運動会では競技の様子を撮影し、思い出を形に残すお手伝いをしました。文化祭では活動の様子や展示の撮影のお手伝いをしました。今後は、プログラミング体験や ICT 技術に関するイベントを企画し、より多くの人がデジタル分野に親しめる機会を提供していきたいと考えています。

清掃・美化



放課後の学校を一緒にきれいにしませんか？ おしゃべりを楽しみながら、子どもたちの様子も見られる、和やかな活動です☆ 活動内容は窓拭き・廊下の掃き掃除・文化祭前の掃除のお手伝いなどで、2週間に1度・金曜日の 16:00~16:30 まで。現在メンバー4名で活動中！無理なく、ゆるりと参加できます。一緒にワイワイ楽しく活動してます！

広報



「磯中って変わってる？」の卒業生の一言から始まる今回。1980~90 年代の先生、生徒会長、PTA 会長など、多くの方々に 1 学期から取材を進めてきました。現役の先生にも取材やアンケートでご協力いただき、昔も今も変わらぬ先生方の生徒への思いに触れることができました。その一端をお伝えすることができたでしょうか。

講演会・講習会



7/14 に大磯中学校出身の河原義さんとソプラノ/歌手の田中絵里加さんをお迎えし、『ようこそ！先輩 MusicConcert』を開催しました。世界水準の本物の音楽に触れ、生徒、保護者のみなさまに大変ご好評いただきました。文化祭では福祉カフェでのジュース販売、駐輪場の整備等をお手伝い。子どもたちの笑顔に触れるやりがいのあるグループです！

祠(ほこら)



由来調査で 1980 年代からしばらくは教職員で 3 年生の合格祈願をこの祠でしていたことがわかりました。8 月 8 日、31 日に傾いていた屋根部分の修繕と 10 月 11 日に床面のコンクリート敷工を行いました。地元の工務店の職人であり磯中の歴代卒業生 4 名の強力なフォローや卒業生の保護者のお手伝いもあり、見違えるようになりました！ぜひご覧ください！

PTA 本部より



福祉カフェをオープン！

文化祭では、講演会・講習会グループと一緒に福祉カフェをオープンしました！宗村先生のアイデアを参考に、当日は卒業生の協力ももらいながら、クッキー(かたつむりの家)、パン(素心会)、みかんパン(進和学園)、ジュースを販売しました。また図書館でアート展示(studio COOCA、ヤッホー、台町地区住民有志)もありました。

水面下で動く話

表立っては見えませんが、実は様々な話し合いに参加しています。

例えば、磯中の給食ってどうなるの？というテーマ。調査や町議会の討論を経た現時点での予定では「自校式」(磯中敷地内に新しく給食室を設置)になっています。しかし現校舎の老朽化も進んでいるため、校舎を建て替えるタイミングで一緒に組み込んではどうかとの意見もあります。

ところが大磯町内で建て替えを待っているのは磯中だけではなく町庁舎、消防署などがあり、新校舎建設の見込みは立っていません。お隣の平塚市や二宮町では給食センターが設置され、複数校に向けて温かい給食が届けられていることを知ると、それも検討してはどうかという意見を耳にすることもあります。皆さんはどう思いますか？

謝辞

発行にあたって、以下の先生方、卒業生、保護者にお話を伺いました。みなさんの磯中愛に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。(敬称略)

熊澤久(元大磯中学校長)、芦川(旧姓吉田)文彰・長瀬こずゑ・杉山映子(以上、大磯中学校元教諭)、九鬼とも子(元 PTA 会長・広報委員長)、熊谷丈(元磯中生徒会長)、伊藤祐一(元文化祭実行委員長)、瀬崎朝子(卒業生・元磯中生保護者)、清水光子(元磯中生保護者)、その他、1980~90 年代卒業生、現役の先生方

編集後記

取材では磯中の歴史の積み重ねを実感、先輩方と先生方の熱意に感動するばかりでした(いと)/まだ制服があった 1980 年代、磯中は「不良」がいっぱいらしい、とのウワサから怖くて私立中学受験をした私にとって、自由化の歴史をめぐる探検は驚きの連続。活気にあふれた職員室の空気、生徒が自分たちで学校を変えている手応えと興奮、私も身近で体験したかった！(笹)/最近の校則廃止や私服登校のニュースを見るたび、磯中はずーっと前からだったよー！と声を大にして言いたかった。先進的であり続けるにはチャレンジし続けることが必要なんだと学びました(か)/磯中の昔話をする先生や保護者、卒業生の表情がとても素敵で、磯中愛に溢れていたのがとても印象的でした(と)